

1. 日時 令和5年3月10日 15:00~17:00
2. 場所 日本児童教育専門学校 A62教室
3. 委員等氏名及び所属

【委員】

岡崎 早苗 株式会社チャイルドステージ人事研修部 マネージャー
桑原 洋一 株式会社どろんこ会 運営本部 本部長
佐久間貴子 株式会社ベネッセスタイルケア こども・子育て支援カンパニー 保育・学童事業推進本部
(代理：前重仁美)
中山 利彦 社会福祉法人省我会 新宿せいが子ども園 副園長
藤田ひとみ 株式会社こどもの森 まなびの森保育園幡ヶ谷 園長

【陪席】

請川 滋大 日本女子大学家政学部児童学科 教授
遠藤 祐太郎 有限会社ビネバル出版/北欧留学情報センター
花村 嘉信 株式会社NOTCH 代表取締役
中西 和子 日本児童教育専門学校 教務部長・保育福祉科学科長
鈴木 八重子 日本児童教育専門学校 総合子ども学科学科長

【事務局】

紅葉真幸、谷村明門、芝井華子

◆議事要約◆

1、委員長挨拶

花村委員長より、進行役を務めること。本日の流れについて説明した。

2、インターンシップの試行について説明

事務局の谷村より、総合子ども学科3年生で実施を検討しているインターンシップの試行についての説明した。

3、評価方法について

教務部長の中西より、授業内および実習の評価に関する新たな取り組みについて説明した。

4、学生の体験報告

総合子ども学科学科長の鈴木より、本校学生が取り組んだクリーン大作戦について説明した。

5、アンケートの結果報告

事務局芝井より、デュアル教育の一環である「保育現場での活動」に関して、学生と学生をお受け入れた園の方々の両者に対して実施したアンケート結果、および卒業生対象のアンケート結果を報告した。

6、意見交換

本校の取組について、委員の方よりご意見をいただいた。

<インターンシップについて>

◆ 前重委員

インターンシップという企画自体は、とても良い企画と感じている。また、協力できるようならぜひと思う。ただ、9～11月に実施しその後就職活動とのことだが、その時期で適切なのか気になる。

今の学生は、実際に園を見てそこで就職したいという学生が多いので、在学中に複数の園を見て、保育業界に興味持って卒業し、就職後は活躍してほしい。

◆ 中山委員

取り組み自体は評価したいが、インターンシップでイメージするのは、保育補助で数か月単位～年単位で現場に来ること。半日あるいは1日とのことだったので、イメージとは異なる。

短い期間ということだと、実習との差別化も必要。

年度初めと終わりでは子どもも職員の間人関係も変わってくるので、出来れば長期間で関わっていただきたい。

取り組みとしてはとても良いと思う。

◆ 藤田委員

インターンシップというと長期間のイメージ。学生の目線で考えると、実習とどこが違うのか分かりにくいのではないかと感じる。

園としては、一日だけのインターンシップで学生が来るなら見学実習のイメージ。そうするとお客さん扱いになるので、本質までお見せできるか定かではない。

実施時期によっても園の姿は様々で、運動会前の慌ただしい時期など、生の姿はその時期でしか見られないし、ゆるやかな6・10・11月とは違う姿になる。

時間も、数時間だとお散歩で終わってしまうので、社会人としてのコミュニケーションを図るところまでは出来ない。どういうところが見たくて来るのか、お客さんなのか仕事を振っていいのか、目的のすり合わせをおかないとただの見学で終わってしまう。

従って、一歩進めていくには見学との違いを明確にした方がいい。

一日だけだとしても同じ園に春夏秋と季節ごとに3回くらい行ってみると、季節を経ての子どもの成長や先生方の人間関係の変化も見る事ができて良いのではないかと。

9～11月の一日や半日の園見学は、就活としての見学とどう差別化するか、現場としても悩んでいる。常日頃、自園の職員には、「見学は保育士になりたいと思える時間を過ごさせてあげてね」と言っているので、見学だとそういう雰囲気が終わってしまう。学生も、慣れてからのの方が本質が見られて良いと思うので、時期を幅広くして、何度か足を運ぶようにすると良い。

最近では、見学もウェブではなく対面が戻ってきているが、見学を学生自身が手配するのはハードルが高いので、学校が設定すると行きやすくなっていいと思う。

◆ 岡崎委員

設定の時期が遅い印象。就活の時期と重なる。

また希望制という事だが、そうなるとう早い段階で内定もらっている学生にとっては、目的と時期がずれてしまう。

期間については、短期(見学)と長期(研修)で選ぶことができるのか？

授業としてではないとなると、具体的にどういった内容が求められているのか、明確にして欲しい。

自社では社内研修をたくさん取り入れているが、研修には複数園が参加するので、この研修に参加することで様々な園の様子を知ることができる。

◆ 諸我委員

① 見学したところでの就職については気にしていない。

現場や保育の仕事を知ることが目的ならば、時期はカリキュラム次第でいつでも受入は可能。就職につながらないから受け入れないということはない。

② 狙い次第

「インターンシップとは」というところがふんわりしている。

実習なのか見学なのか明確になっていないと、どういう心持で手を挙げたらいいか迷うので、はっきりさせていただきたい。狙いが、保育業界の魅力を知ることなら卒業年次ではなくもっと前がいい。

③ 希望する学生の募集方法

より興味を持って参加できるように、受入園の方の話を聞いてから応募するようにする方法がよいのでは？

④ 事例

どろんこ会では広尾学園と提携してインターンシップを実施している。

高2生が3人参加し、広報部の外部発信の仕事を体験している。保育・教育・起業に関心のある生徒が半年に渡って実施。「中高生の職場体験をたくさん集める」をテーマに実施しており、参加生徒も主体的に取り組んでくれている。

◆ 遠藤委員

消極的になる理由が気になった。不安な状況で実習に行っているのではないかな？

少しでも自信をもって楽しめるように学校でできるといい。

実施時期については、8月は休む子どもが多く先生方の動きも普段とは異なるが、9月になると雰囲気が変わって、クラスも落ち着いてくる。逆に4月の慣らし保育の様子(慣らし保育で大泣き)をみてメンタルをやられてしまう事もあるので、学校でもそういうことも伝えて実習に臨めたら良いのではないかな。

以前の学生と違ってコロナで制限をかけられながら生活してきた学生は消極的になりがち？

モチベーションを上げる授業を経て実習に行けたら良いと思う

◆ 花村委員長

他の学校、事業者の取り組みを紹介したい。

ボランティアは4年制大学が多い←意義ある取組

浦和大学(4年制)の課題は、保育士を希望しない学生の割合が増えていること。

半数以上が他業界に進み、最終的には8割ほどが保育士になる。

1・2年生から他の業界の話をしてもらう → 他業界大変 → やっぱり保育士良いなど戻ってくる。

その反面、事業者としては、受け入れるけど何をしたらいいのかな？

良い取り組みだとは思いますが、具体的に何をどうしたらよいか不明確。仕様をまとめていただけるといい。

チャイルドステージやどろんこ会などの話に通ずるが、一般業界などの現場から離れたところで研修したりもする。

現場と離れたところで、ワークショップ形式で考えてみようと思案するのもいいのでは？

保育現場は、今の学生がどういうことを大事にしているのかな？そもそも職員もZ世代って？と思っている

◆ 請川委員

4年制は余裕があるが、短大はインターンシップに出す時間が無い。

専任校では児童学科の3年生で実施している。就職のマッチングではなく、緊張する実習でもなく、ゆったりと子どもの成長、先生方の仕事を手伝わせてもらって、長くいくことを目的にしている

必修にするとご迷惑おかけすることもあるので、しっかりした学生でないと送り出せない。

希望制で行っている。100名中20名ほどのしっかりした学生。

実習でお世話になった園に行くとは限らない。

まとめて区(文京区や新宿区)に依頼している。遠い学生は特例で私立園等にお願いしている

受け入れる側にメリットがあるのかという懸念はあるが、学生には良い学びになっている。

時期の問題としては、週1で長期実施。4月の落ち着いた時期から時間たつと成長も見られて良い。

◆ 谷村

様々なご意見ありがとうございました。

時期を変えて行くのも良い。

小規模園を希望している学生が多い傾向にあるのは、行事への負担が少なそうというのもある。行事を通しての子どもたちの成長を間近に見られるとそういう感覚も変わるのではないか。

<評価方法について>

◆ 請川委員

評価できる基準にしなければならない(「～ができる」のように)

中間での振り返りチェックは大変？学生が足りないところを気づけるのは良いが、園側で時間を取っていただくのは大きな負担？

◆ 花村委員長

実習もやるべきことは決まっているが、受入側が何をねらいにどう受け入れたらいいか迷うという声がある。

そのつもりはなくてもモチベーションを下げてしまったり、ディスコミュニケーションしてしまう。

いまの学生が何を悩んでいるのかどういうタイプの学生がいるのか、申し送りをしっかりして受け入れをどうしたらいいか学校から情報発信してもらえると助かる。

◆ 遠藤委員

実習期間が短い。デンマークでは1年間実習がある。向いているかどうかもわかる。大変だよということが分かるようになる。短い時間の中で自分に合っているかどうか、判断できないのではないか。

実習生は、日に日に顔が暗くなっていく印象。実習時間の見直しが必要。

本当に良い保育士を育てるなら実習時間を増やすべき

◆ 諸我委員

・評価されることに対する不安は具体的にいうと？

→(中西先生)一般的に他人からどう見られているかということに敏感。

学校でも授業内で教員や他人からどう見られているか。自信が無い。

・ここでどんなことを学びたいと思うか

項目のところは、一般企業と同様に合理的に見直されている。

一番難しいのが評価者のすり合わせ。丁寧にやったほうがよいし、丁寧にやるためには徹底的に項目を減らす事が望ましい。1~2個でもいい。じっくり話すのがいい

◆ 岡崎委員

評価の前に目的が大切。何を学びに来ているのか、何を知りたいのかを明確に。

学校の授業でどこまで勉強してきているのか。その上で学生がここを知りたいというのが欲しい。

後期活動のなかで 発達の違いが知りたいという学生がいた。0歳と2歳のクラスに入って、違いが見えたと話していた。目標がはっきりしているね、など学生を沢山褒めたい。それが評価に繋がったらいいと思う

◆ 藤田委員

評価を現場でするにあたって、項目全部を職員が理解できているか疑問。

実習中に対応する事象が起こっていないと、判断することが難しい。

なぜその評価項目を設定したかという所まで現場と共有してもらえると、判断がしやすい。

学校が求める評価項目の細かい部分を評価する側が把握できているか疑問。

実習の目的として、なにを学んでほしいのかがあらかじめ分っていたら、その項目について理解できていたら「優れている」、理解できていなければ「努力を要する」と評価することができる。

日誌が提出できたかどうか、遅刻や欠席の有無も学校で確認できる。それを現場で判断するとなると、園によって対応が違う。同じ状態でも園によって違った評価が出てくる可能性がある。日誌の文章力も法人によって異なる。

この園で働くとしてというのは評価。評価の基準とイメージをきちんと伝えておかないと評価の違いに戸惑う。園毎に違うと伝えてもらえると園側としては評価しやすい。がっかりさせるとかわいそうと思って評価してしまう。

実習の目的は ここ だから ここ について園として話して、できたと思うか、どのくらい達成できたかを書くようにするといふ。

◆ 中山委員

・実習生受け入れについて

記録は手書きで無いといけないのだろうか？

一日の流れ 時系列に書く、学んだことを書く。一日8:30~17:00 12日間書くことは気の毒

受入側も記録のチェック、所見もあって大変。記録さえなければ何人でも受け入れたいというのが正直なところ。簡素化を計ってほしいというのが率直な気持ち。

・評価についてどう考えるか

実習していない保育士もいる。養成校で学んだはずなのにわかっていない。保育所保育指針も数十年前に学んだから、現在の内容は分からない。評価項目見て面食らってしまうのが現状。

・保育士の専門性とは？

判定できる能力のあるひとが保育士。

・実習生を受け入れる体制

苦しめるための実習ではなく、働きたいというモチベーションを高めるための実習を受け入れたい。

職員の負担が増えるのも避けたい。

東京都から補助金をもらえるから受け入れないといけないので頼む。

受け入れる先生方は真剣。この保育方法で仕事するということはどういうことか、実習期間で分かってほしい。

評価は働き方を理解できたかどうか→所見見ればわかる。働き方を見ればわかる

できれば記録は簡略化してほしい。

◆ 前重委員

実習の評価となると、加点式ではなく減点式と感じてしまう。

良いところを伸ばすという本来の子どもの育て方のように、実習生の良いところを見つけて送り出したい。

学校に戻って、“こういうことを深めていこう”というきっかけにしてほしい。

学生自身とする自己評価が大事。担当者からするとチェックするのは避けたい。

6つの力に共感している。

→姿勢・意欲を学生が表現できるものがあるといい。社会人としての基本は外せない。

他には関わりというところがヒントになれば十分。

<学生の体験、アンケート結果について>

◆ 前重委員

「保育現場での活動」を受け入れている

テーマが決まっていて、動画説明もあり分かりやすかった。逆に受入側への要望があれば言っていたきたい。次年度も積極的に受け入れたい。

◆ 中山委員

産学連携で来ていただけるのは嬉しい

夜間の学生は昼間の様子を見られないので、まずは子どもがいない様子を見て頂いてから、その環境の意味を説明し、昼間の子どもたちの姿を動画で見てもらっている。

今後も続けていただきたい。

◆ 藤田委員

見学を受け入れている。

学生の目的が4項目とポイントが絞られているので、限られた時間の中でも設定、事前準備がしやすい
次年度もよろしくお願いします。

◆ 岡崎委員

アンケート結果にあったように、受け入れることで保育をふり返ることができる。

今の学生の状況も分かるのでありがたい。こちらとしても良い勉強になる。今後も受け入れていきたい。

◆ 諸我委員

効果的な取り組み。

乱暴な言い方になるかもしれないが、この延長が実習でもいいのではないか。

就活の参考になるかどうかの結果は問題では無い。保育の現場を知る事に意味がある。

◆ 遠藤委員

保育士の悪いニュースも多く取り上げられてしまっているが、専門学校で、魅力ある保育士の姿を伝えることができるのではないか。

今回の会議で多くの発見があった。次回もお話できたらと思う。

◆ 花村委員長

児教専は手厚く学生対応している。

実習授業だけではなく、ボランティア体験・社会とのかかわりが成長につながる。

先生方の努力で機会を増やしていることが分かり、学びになった。

◆ 請川委員

アンケートにあったように、保育士のよい姿(子どもと一緒に遊ぶ姿、子どもを褒めている姿)をみると気持ち
が上がる。

しかし逆もある。保育現場の厳しい姿を見て、業界自体に行くことを辞めてしまうケースもある。

どういった現場で体験するか、どういう先生の姿を見てもらうかが大事。

以上、終了時間となり、散会となった。